

平成25年度 西東京市立 泉小学校 学校自己評価表

	具体的方策	第 1 回 (10月25日)				第 2 回 (2月20日)			
		学校自己評価			学校関係者評価	学校自己評価			学校関係者評価
		努力目標	成果目標	学校の取組み及び改善策		努力目標	成果目標	学校の取組み及び改善策	
確かな学力の向上	習熟タイムの設定等の習熟方法を工夫し、年間4回、漢字と計算についての定着率を診断テストで調査する。 担当教務 進行管理・谷川先生	4	3	漢字は4年生だけ50%に満たない成績であったが、他の学年では3~4の判定となっている。4年生での一層の定着を図るよう努力したい。計算はどの学年でもおおむね良好だが、高学年に進むにつれ、若干下降気味になっている。高学年は積み重ねが反映されるので、苦手とするところや、あいまいなところがあると成果に反映されてくる。基礎的な計算技能に漏れがないようにチェックしていきたい。	3	4	3	漢字の成績はどの学年も向上し、達成度が0.6ポイント上がった。算数は学年によりかなりばらつきがあり、問題の選択が適切でないものもあるようである。しかし、例えば4年生の小数の問題は、教師が基本的とみなした問題でも、子供にとっては難しかったので、授業の重点の置き方、進め方に関する有益な資料になった。	3
	授業づくりスタンダードの項目をもとに授業づくりの工夫を継続して行い、年間3回、児童の意識調査を実施して意欲の高まりを把握する。 担当教務 進行管理・谷川先生	4	2	「文具の用意」「ノート」「授業前後のあいさつ」はできているととらえている。「道具の片づけ」の項目で、まあまあできている。学習の用意片づけはおおむねできているととらえている。一方、学習の態度、姿勢、家庭学習を進んでやることなどは十分ではないと意識している。「次時の準備」「先生の待ち方」「姿勢正しい座り方」「ノートの工夫」「言葉づかい」「話の聞き方」「話し方」「自主学習」などが評点2であった。	3	4	2	前回とはアンケートの形式を変えて、学習への意欲を調べることにした。自分から意欲的に学習に取り組もうとしている項目に○をつけた児童は、学校の75.5パーセントであった。さらに高めるためには、個別の指導が必要であると思われる。	3
	読書カード等を工夫し、読書に対する興味、関心をもたせ、読書量調査を年間3回実施する。 担当図書部 進行管理・中島先生	4	「前回調査より増加した」児童の割合で評価するため、第1回は評価なし	読書量を増やすために、全学年での金曜日の朝読書、2年生以上における完読の記録に取り組んできた。特に低学年においては、指で字を追って読む「指読み」、担任による読み聞かせ、多くの本を読んでいる児童への称賛など、発達段階に合わせた工夫が、意欲を高めるために有効であった。今後は1年生も完読の記録に取り組ませていく。	4	4	4	完読の記録、金曜日の朝読書、読書仲間、お薦めの本を紹介といったさまざまな読書活動を継続した結果、読書量の増加が目に見える形で現れた。冊数の伸びは特に低・中学年で著しく、来年度も早い発達段階から「最後まで読み切る」ことの指導を進めていくことが重要であるといえる。	4
豊かな心の育成	道徳の時間に重点項目について学期2回以上指導し、年間3回、道徳的判断力が高まったかを調査する。 担当道徳部 進行管理・山崎先生	4	2	生活指導と関連させて「あいさつカード」やあいさつ旬間などの活動を通じて、進んで気持ちのよい挨拶ができる児童の育成に取り組んできた。全担任が道徳の授業を公開し、保護者や地域の人からのふりかえりを参考に充実した授業の実施に努めていく。また、週案に内容項目を記載し偏りがないように取り組む。	3	4	3	学校でも、あいさつを自分から進んで行ったり、廊下を右側歩行するなど基本的な生活習慣が身につけている児童が多く見られた。場に応じた挨拶ができるよう支援するために教員が自ら率先して手本となり、家庭との連携を更に密にし、歩育や挨拶など児童の道徳的意識が向上するよう継続、習慣化につとめる。	3
	特別活動等を通して異学年と関わる場を多く設定し、年間3回、児童の意識調査を実施する。 担当特別活動部 進行管理・山岡先生	4	2	縦割り全校遠足では、異学年でグループになり、ウォーキングラリーや班遊びなどをケガなく安全に活動できた。高学年が低学年をお世話しながらコミュニケーションを積極的にしている姿が多く見られた。今後は、月に1度のたてわり集会だけでなく、普段の休み時間などからも関わり合えるように促していく。	3	4	3	縦割り集会では、6年生が計画を立てて実行することができた。高学年が低学年をお世話しながらコミュニケーションを積極的にしている姿が多く見られた。特に休み時間では校庭で一緒にサッカーをしたり、なわとびをしたりしながら楽しそうに活動している姿が見られた。今後もさらに関わりを深められるよう、休み時間などの活動を見届け、称賛しながら向上していきたい。	3
健やかな体の育成	体育集会等を実施し、体力の向上を図る。年度当初の体力テストで重点種目を決定し、学期ごとに重点種目の体力テストで実態を調査する。 担当体育部 進行管理・山岡先生	4	4	体力測定の結果から、準備運動などに重点種目の強化のための動きなどを取り入れて運動を行うことを伝えた。学年ごとに全国平均より下回っている種目が異なるため、各クラスごとに課題のある動きの向上の為の取り組みの例を配布した。2学期末の体力テストを含め、今後も外遊びや運動の楽しさなどを励行し、今後も児童の体力向上に努める。	4	4	4	体力測定の結果から、2学期は学年ごとに全国平均より下回っている種目について再測定を行った。課題のある動きの向上に努めた為どの学年も東京都の平均を上回ることができた。3学期は体育的行事を通じて、さらに今後も外遊びや運動の楽しさなどを励行し、今後も児童の体力向上に努める。	4
	主任養護教諭の指導のもと、保健指導の場を昨年度より増加し、保健指導の充実を図り、また、栄養士と連携し食育指導を行い、年間3回、児童の健康に関する意識調査を行う。 担当保健部 進行管理・桑島先生	4	4	意識調査の結果から朝ご飯、睡眠、運動についての保健指導を実施している。ほげんだより、給食だよりで月ごとの指導目標を伝え学級指導を行い、給食指導時間に栄養士の食育放送を実施している。	4	4	4	食事、睡眠、運動の指導を継続的に実施し、特に朝食について体力作り、風邪予防の点からもバランスよくたべる指導を学級指導と給食指導で行っていく。	4
地域と歩む学校	青少年育成会の行事に学校として積極的に参加充実させ、保護者アンケートの満足度を調査する。 担当 副校長	4	2	育成会主催のスポーツ大会では、子供のチームに入り一緒にゲームをしたり、「わくわくコンサート」では教員バンドで全員参加したり、積極的に取り組んでいる。半数以上の保護者の方からは積極的な教員の参加を認めて頂いているが、1/4の保護者の方は「わからない」と回答されているので、学校からの発信をより活発にし理解して頂けるよう努力していく。	3	4	3	全体的に見て、70パーセントを超える方がよいと評価してくださった。前期よりも評価が上がった。これからも積極的に参加し、共に活動をしていき、ご理解を深めていきたい。	3
	学校だより、学年だより、保健だより、給食だより、図書館だより等は月1回以上、学級だよりは月2回以上発行し、ホームページも充実を図り、保護者アンケートの満足度を調査する。 担当 副校長	4	4	保護者の9割の方から「わかりやすく知らされている」と評価を頂いている。これからも、学校・学級の様子をタイムリーにお知らせしていきたい。	4	4	4	前回に引き続き、アンケートの回答から、分かりやすく知らされているという評価が得られている。学校の様子をこれからも発信していきたい。来年度は、HPを充実させ、頼学校の理解を深めていきたい。	4

